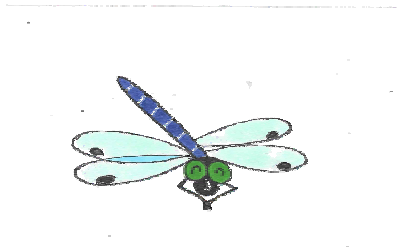


平成17年度 湯沢砂防公開講座 魚沼自然塾

- Uonuma Nature School -

第2回

大水にも備えて地域とともに川づくり (現地見学とお話)



平成17年9月3日(土)
於：津南町 中津川周辺



しおり

プログラム	9:00~	受付・なじょもん見学・お話
	10:50頃	展望台着、中津川床固工群見学・お話
	11:10頃	竜ヶ窪着、ミニクイズウォーク
	12:20頃	グリーンピア津南にて昼食
		地元の方のお話・クイズ解答
	14:30頃	行き先別にバス出発、到着後解散

主催 - 国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

共催 - 十日町市、南魚沼市、魚沼市、川口町、湯沢町、塩沢町、
津南町、長野県栄村、国際大学、(社)雪国青年会議所、
(社)十日町青年会議所、(社)小出青年会議所、魚野川を育む会、
中津川整備を実現する会

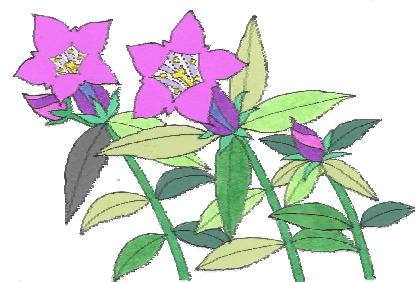
後援 - 新潟日報社・(株)エフエム雪国、(社)北陸建設弘済会

見学位置図



新潟県の南端に位置する中魚沼郡の津南町は、河岸段丘の町として知られています。長野県内を流れてきた千曲川はこのあたりで信濃川と名を変えますが、その信濃川と支流が長い年月をかけて作りあげた河岸段丘は9段を数え、その数からいっても、段丘面の広さからいっても、日本で一番といわれるほどのスケールを誇っています。津南町は、この段丘の上に広がる町です。

もう一つ、津南町で有名なのが豊かな湧水、湧き水の数々です。中でも町内の谷内（やち）にある「竜ヶ窪の水」、別名「谷内の池」は、環境省の「名水百選」にも選ばれています。

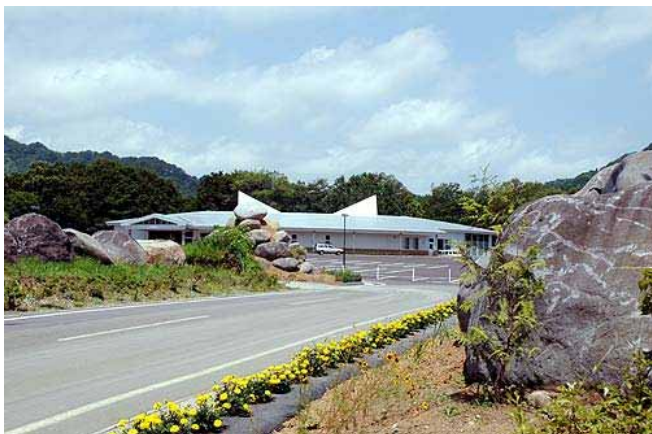


農と縄文の体験実習館 なじょもん

農と縄文の体験実習館「なじょもん」は、津南町の主な産業である「農業」と町の重要な遺産である「縄文文化」をキーワードとして、歴史的な自然環境を守り、後世に伝えていくための館です。

「なじょもん」では、消えつつある「自然と人とのつながり」をテーマに、自然素材のクラフトや地域の方の体験談、伝統工芸などさまざまな体験実習ができる館になっています。

文化財整理室ではガラスケースが排除され、展示品にじかに触れることができます。



中津川床固工群

中津川は、非常に急流で蛇行や偏流が著しい川です。また、上流部は鳥甲山（とりかぶとやま；標高 2,038m） 苗場山（標高 2,145m）などの火山とその噴出物から成り、地質がもろく荒廃が進んでいます。

中津川流域では昭和 27 年に砂防出張所が設置され、国による砂防事業が始まりました。下流域では上流からの土砂流出と偏流によって度々被害を受けていたことから、大きな出水のたびに田畑の欠壊などの被害が出ていたことから、流れを安定させ、安全に水と土砂を流すために、平成 12 年度より中津川床固工群の整備を行っています。

整備計画作りにあたって、湯沢砂防事務所では津南町の沿川利用計画と整合をとり、またアンケート調査やワークショップによって住民の声を取り入れるなどして、地域と一体となって計画作りを進めてきました。計画では約 5.7km の区間を 3 つのゾーンに区分し、運動公園、自然生態観察公園、キャンプ場などを配置します。

現在はスリットを持つ第 3 号床固工が完成、4 号に着手しています。床固工は川底の侵食を防ぎ、流れを整える働きがあります。



着工前の中津川



施工中の第 3 号床固工
（平成 13 年度魚沼自然塾で見学）



現在の石坂橋付近（橋の上流が第 3 号床固工、中央部手前に白く見えるのが第 4 号床固工）

竜ヶ窪

竜ヶ窪の水は、標高約 450m の湧水池で、周囲にはブナ、ミズナラ、ハウノキなどの広葉樹の茂る森が広がっています。5 月の連休のころ、雪解けとともにミズバショウが咲くことでも知られています。

津南町に湧水が多いのは、この地方が日本有数の豪雪地帯であることが大きく関係しています。一冬の降雪量は 20m を超え、一晩に 1m 積もることも珍しくありません。その雪は多くは雪解けとともに川へ流れますが、一部は地面にしみ込んで地下水となります。それが、長い時間を経て、段丘の崖から湧き水となって出てくるのです。

竜ヶ窪の水は、昔からどんなに雨の少ない年でも、決して涸れることがなく、日照りの年には、近隣の村からたくさんの人が雨乞いにやってきたそうです。これは、雨が降らなくても、地下水の量はそう簡単に減らないことを意味しています。現在も湧き出る水の量は大変多く、1 日で池のすべての水が入れ替わると言われています。

近年の名水ブームの影響もあって、竜ヶ窪の水にも、東京などから水を汲む人がやってくるようになりました。人が集まると水の汚染の問題も起こってきますから、貴重な湧水を汚さないように、みんなで守っていききたいものです。



竜ヶ窪の伝説

むかし、越後の南のはずれに、妻有の里・芦ヶ崎という村がありました。ある年、長い日照りが続き村人はヒエやアワどころか水一滴すらなく苦しい生活をしていました。そんなある時、一人の青年が、天上山へ何か食べるものはないかと捜しにでかけたところ昼寝をしている龍を見つけました。そばに卵があったので龍が眠っているすきの卵を盗み出しました。そして、その大きな卵を村に持ち帰り、村人と相談した結果、せめて年寄りと子供にだけでも食べさせることにしました。

卵を割り始めると、卵の中の龍の子が母親龍に助けを求めました。するとそこへ、怒り狂った龍が現れ、村人を食い殺そうとしました。庄屋をはじめ村人は必死に「子供だけは助けてほしい」と龍に頼みました。龍はそんな必死の村人に心を打たれ、村人のために三日三晩雨を降らせ、池を作ってやりました。

村人たちは喜んで龍に御礼をいうと、龍は「この池は、お前たちの美しい心の現れだ。しかし、人の心の曇るとき、この池は涸れてしまうであろう」と言い残して消えてしまいました。村人はこの池を『竜ヶ窪』と名づけてたいせつにし、神社を建てて龍神様をおまつりしたそうです。

(津南町立芦ヶ崎小学校編「竜ヶ窪に伝わるお話」より)

グリーンピア津南

グリーンピア津南は、苗場山麓の自然に抱かれ100万坪のスケールで広がるリゾートです。アウトドアスポーツや温泉露天風呂が一年中楽しめます。今年10月から津南町の経営となることが決まっています。お客様サービスやスタッフは現在のまま引き継がれるとのこと。



本日の講師・地元ゲスト

佐藤雅一さん

なじょもの文化財専門員。本日は、津南の段丘と縄文文化、災害考古学などについてお話していただく予定です。

藤ノ木一郎さん

役場・森林組合に勤務し、現在は退職して地区45戸の惣代を務めておられます。本日は昔の中津川の様子や災害、川遊びなどのお話をしていただく予定です。

山本春郎さん

津南町建設課にお勤めで、8月は大雨の対応に追われました。中津川の整備の苦労話などをしていただく予定です。

川野修行さん

グリーンピア津南の総支配人。津南町の観光資源をもとにした地域活性化への取り組みなどをお話しいただく予定です。

半戸英子さん

竜ヶ窪の名水を使った豆腐づくりや、すぐそばにある芦ヶ崎小学校で体験学習の支援なども行っている12名の女性グループ「ひまわりグループ」の代表。県の農村生活アドバイザーでもあります。